

棚  
田

# ライステラス

第6号 1997.4.5

(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク・木村美江

〒160 東京都新宿区若葉1-6

エンゼルBOX101

TEL 03-3355-0420/FAX 03-3355-4220



第81回二科展(1996)

## 特選 冬の棚田Ⅱ

長田秀雄さん



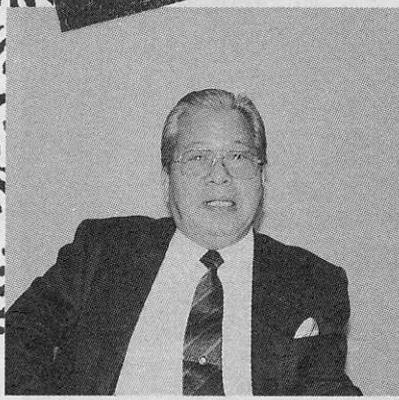
宮崎市に住む長田秀雄さん(36歳)の描いた棚田の絵が昨年、東京都美術館・上野の森美術館で開かれた第81回二科展で特選を受賞した。受賞作は『冬の棚田Ⅱ』。ゴツゴツとした棚田の石積みが山の上まで続く。田に積もった雪が幾重にも白い直線を描き、中腹に並ぶ家々が浮かび上がるようにしてある。こんな福岡県黒木町の棚田の風景が正方形のキャンバスいっぱいに描かれている。寒い冬の風景なのに、なぜか温かみを感じる作品である。絵を描き始めて22年になる長田さんは、雪への憧れから14年前より雪景色シリーズに取り組んできた。休日を利用しては心に響く景色を求め、あちこち訪ね歩いている。

長田さんは食糧事務所で働く公務員。農業と農村の風景に深い関心を持つていたが、棚田を題材にしたのは今回が初めて。「きっかけは職場でたまたま目にした星野村の棚田の写真でした。『こんな急傾斜地でお米を作るのか』と驚き、早速星野村にでかけました。とにかく迫力ある石積みに感動しました。どの風景を描こうかとさらに奥へと車を走らせたところ、深い森に囲まれたこの棚田の風景に出会ったんです。城壁のような石積みに守られているようにして民家が並ぶ、こんな静かなたたずまいに惹かれたんです」。

さらに、長田さんは棚田への想いをこう話す。「訪ねた先の棚田が荒れているのを見ると寂しい気持ちになります。この風景を少しでも多く残して欲しい。応援する気持ちを込めて、これからも棚田の絵を書き続けるつもりです」。

# 1年生

# 私はオーナー



●堀尾 輝昭さん●

美しい自然ときれいな空気と水に囲まれた杉原紙のふるさと兵庫県加美町で、今春からでもオーナー制度を始めることになった。田植えの時期を前にして、新オーナーはどんな気持ちでいるのだろうか。

「親の代から町なか育ちやから田舎がない。小っちゃな頃、周りの友達がお盆や正月に田舎に帰るのを見て『ええな』といつも思ってたんですよ。サラリーマン時代は仕事ばかりの生活だったけど、引退し家に落ち着くようになって、自然がたくさんある場所でのんびりしたいと改めて思うようになりました。だけど別荘や温泉でじっとしているんじゃ面白うない。どうせ行くなら棚田で米を作りたい、地域の人達とお近づきになりたいと思って応募したんやけど米作りは初めてやり方を知らない。大丈夫やろか?」

大阪市に住む堀尾輝昭さん(67歳)は、加美町の棚田オーナーに決まつてとてもうれしそうだ。大手セメント会社の役員をしていた堀尾さんは、昨年退任し、住吉区にある自宅で奥さんの滋子さんと息子夫婦、2人の孫と暮らしている。「本

格的な農作業はやつたことはないけど、趣味で野菜をいろいろ作っているので収穫の喜びは知っています。募集は新聞記事を見て知りました。加美町には行つたことはないが、パンフレットをみて景色のええところやなあ、こんなところで米作りしたいなあと思い応募したんです。平地でお米作るのも大変やのに、棚田で作業するのは腰も痛くなるやろなと今からあれこれ考えています」。

最近になって新聞やテレビで棚田が取り上げられることが増えてきたが、それ以前から堀尾さんは棚田に対して深い関心を持っていた。「前に仕事の関係で四国にいた事があるのですが、急傾斜地にある棚田に豊かでなかった時代の人々の強い米への執着を感じました。木を切り倒し、土を耕し、コツコツと棚田を作りあげた先人達の苦労が偲ばれます。かつ

ての日本人の貧しさと勤勉さの象徴ですね。最近では、おじいちゃんおばあちゃんが棚田を守っている所が多いようだが、このままだと棚田は荒れ放題になり見捨てられてしまう。とはいっても棚田での農作業は重労働であるのは事実。むやみに『保全して』などとは絶対に言えない。農作業がなされている状態で棚田を保全しようというオーナー制度は、都会に住む者が棚田に目を向け、少しでも協力できるいい手段であると思う」。

応募当初から、息子さんも「面白そうやな」と興味を持っている。家族6人で加美町へ農作業に出かける日ももうすぐだ。「ただお金払うだけのオーナーではつまらない。加美町までは車で2時間と近いから、月1回は行き、年間を通して農作業を続けようと思つてます。ずっとサラリーマンやつた自分にとって農業は言つて見れば分野の違う異業種だ。だから地域の方々に教えてもらうことがたくさんあると思うけど、町の方々との交流を何よりの楽しみにしてる。これで自分にも念願の『田舎』ができるとええな」。

## 兵庫県加美町

加美町棚田オーナー 堀尾輝昭さん

田舎ができるとええな

加美町では“神が岩に座るところ”である岩座神(いさりがみ)地区の棚田で、今春からオーナー制度を始めた。約10㌶の棚田2枚を10区画に分け、1区画約100平方㍍の棚田を5万円で、神戸、大阪などからの参加を含む10組のオーナーに貸すことになっている。

オーナーは「直接」農作業をすることが義務であり、農家の指導でコシヒカリを低農薬栽培するほか、宿泊施設が割引で利用できるなどの特典もついている。

町では3年前から、国、県補助の中山間地域活性化推進事業に着手し、1960年前後から70年前半の素朴な農村景観をコンセプトに「いにしえの里づくり」(町提唱)を目指してきた。千ヶ峰山腹に広がる岩座神地区(21戸)は標高300~400㍍にあり、石積みの棚田が465枚残っているが、高齢化などの問題で維持管理が難しくなっていた。昨年、町民代表による「中山間地域活性化推進協議会」を設置し、同地区をモデル地区に指定、地元住民によるワサビやソバの試験栽培の一方、景観に彩りを添えるマンネングサの石垣植栽をしてきた。町では、「中山間地域にとって都市に住む人と交流することは、良い刺激になるはず。心のつながりができる事を期待している。豊かな自然と美しい景観を生かしたこの取り組みを成功させたい」と話している。



新会員になりました!

## 佐賀県玄海町

浜野浦地区の棚田は、玄海灘に面しており、小さな川を挟むようにして棚田が広がっています。この地域は比較的、米の生産性が高く、田を守っていこうとする意識も強いようです。毎年5月の田植えの頃になると、水平線に沈む夕日が水田に赤く照り映え、見事なコントラストを見せてくれます。最近では、この“棚田の夕日”をカメラにおさめようと、現地を訪れる人々の姿がたびたび見られます。

- 〒847-14 佐賀県東松浦郡玄海町 大字諸浦348
- TEL 0955(52)2111/FAX 0955(52)2813
- 町長 鶴田留藏
- 担当 産業課商工観光係
- 交通 唐津市からバスで約40分

県の事業で棚田とそこで米を作る農家をバックアップしている事例をご紹介します。

### ●徳島県

徳島県では、農山村の原風景である棚田を、生産の場としてだけでなく景観資源や交流の場として見直していくこと、「棚田等資源活用推進事業」を9年度から4年間実施する。

◇事業主体 町村・農協・第3セクター・農業者の組織する団体など

### ◇モデル地区

約1ヶの棚田や傾斜地畑及び農山村の原風景（水車、谷間、ため池等）と一緒に育つ大字単位の

究会の開催・棚田等農地の活用及び流動化促進（アンケート調査の実施）＊補助率・定額でモデルに対し20万円以内

②棚田等の機能を広く認識し、評価するためのソフト活動（フォトコンテスト、PR活動、オーナー制度の導入、あぜ道ツ

アーチ）に要する経費

③新たな資源として棚田を活用するための経費（景観作物等の導入・簡易な条件整備（遊歩道の設置、棚田ふれあい広場の

進んだ棚田のある地区に景観に配慮した基盤整備や生活環境の整備、都市との交流施設の整備等総合的な施策を実施し、農家所得の向上と地域の活性化を図る。

◇実施地区 佐伯町奥塩田・中央町大坪和・英田町上山・建部町畠東・哲西町千子・加茂川町千守・久米南町北庄

◇事業主体 市町村、営農集団

◇補助期間 1地区 5年以内

◇補助限度額 5000万円以



集落

◇事業内容 ①は必須

地域が一体となって棚田等の資源を舞台とした取り組みをしようとする地域を選び、組織作りや各種活動に必要な条件を整備する

①モデル地区内の組織の設立 植物会、研究会に要する経費

「棚田等資源利活用検討会、研

究会の開催・棚田等農地の活用及び流動化促進（アンケート調査の実施）＊補助率・定額でモデルに対し20万円以内

②棚田等の機能を広く認識し、評価するためのソフト活動（フォトコンテスト、PR活動、オーナー制度の導入、あぜ道ツ

アーチ）に要する経費

③新たな資源として棚田を活

用するための経費（景観作物等の導入・簡易な条件整備（遊歩

道の設置、棚田ふれあい広場の

進んだ棚田のある地区に景観に配慮した基盤整備や生活環境の整備、都市との交流施設の整備等総合的な施策を実施し、農家所得の向上と地域の活性化を図る。

◇実施地区 佐伯町奥塩田・中央町大坪和・英田町上山・建部町畠東・哲西町千子・加茂川町千守・久米南町北庄

◇事業主体 市町村、営農集団

◇補助期間 1地区 5年以内

◇補助限度額 5000万円以

2分の1以内

◇事業費積算 総計500万円

①棚田保全のモデル地区：5地区 ②棚田のPR活動等：2地区 ③棚田の活用ための条件整備：2地区

設置等】＊②と③の補助率…

消費者の志向や流通販売方法が多様化する中で、「米どころ岡山」として優良米の生産を基本とし、地域の特性を生かした個性的で特色ある米づくりを進めることで、生産者と消費者が互いに信頼関係で結ばれ、個性的な米づくりに取り組み、特徴ある販売活動を行う実践モデル

地区を育成する。事業には、一般型（5ヶ以上の団地）と中山間地型（1ヶ以上の団地）がある。

◇岡山県

岡山県では美しい村保存事業のひとつとして4～7年度まで「棚田天然米产地育成事業」を実施し、棚田米をつくる市町村に対し資金を援助し、岡山棚田米としてブランド化を図ってきた。さらに2つの事業も進んでいる。

◆棚田地域営農条件等整備事業

（5～11年度）

過疎化・高齢化が進み荒廃が

進んだ棚田のある地区に景観に

配慮した基盤整備や生活環境の

整備、都市との交流施設の整備

等総合的な施策を実施し、農家所得の向上と地域の活性化を図る。

◇実施地区 佐伯町奥塩田・中

央町大坪和・英田町上山・建

部町畠東・哲西町千子・加茂

川町千守・久米南町北庄

◇事業主体 市町村、営農集団

◇補助期間 1地区 5年以内

◇補助限度額 5000万円以

2カ年継続

推進活動事業60万

円（定額）、条件整備事業270万円

（5年間継続）

棚田の農作業受

託に助成、農作業路の整備の支

援をする。また、農作業体験な

どから都市住民の棚田保全の意

識を高めようと「棚田保全キヤ

新食糧法の施行に伴った激し

◆顔の見えるブランド米产地育成事業（6～10年度）

具体的には、集落が行う棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

ンペーン」も展開する。9年度は790万円を計上した。まずは棚田の現状を調査し、集落の移行を踏まえた上で、景観面など公共的機能の観点から保全すべき棚田を特定し、保全地域に指定していく意向だ。

◆石川県・輪島市

輪島市では、5年度から白米

地区の千枚田に対し「輪島市千

枚田景勝保存基金」（8100

万円）を設け、水管理にかかる

費用や農作業を援助するボラン

ティアの経費に充てている。そ

の基金に対し、石川県では年間

2000万円、貸付金として補

助している。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆顔の見えるブランド米产地育成事業（6～10年度）

具体的には、集落が行う棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆顔の見えるブランド米产地育成事業（6～10年度）

具体的には、集落が行う棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆顔の見えるブランド米产地育成事業（6～10年度）

具体的には、集落が行う棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆顔の見えるブランド米产地育成事業（6～10年度）

具体的には、集落が行う棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

の材料にしていくこと「ふるさ

と・水と土保全対策に関する地

域住民活動推進事業」を実施し

ています。

◆兵庫県

兵庫県では、9年度から

「棚田保全緊急対策事業」を始めた。

棚田の現状への理解を深めてもらおうと、棚田写真コンテスト

を8年度に実施しました。また、

新潟県でも棚田を地域の活性化

# 会長がかわりました

全国棚田(千枚田)連絡協議会



佐賀県西有田町長  
藤 寛氏



高知県梼原町長  
中越 準一氏

## ●会長を交代します●

### ●会長に就任します●

第一回の棚田サミットは、全国より142市町村より1200名の方々にお集まりいただき、盛大に開催することができました。また、第二回は佐賀県西有田町において世界炎の博覧会に合わせて開催され、本年は長野県更埴市での開催となり棚田を彩る彼岸花が

今年も田んぼの畦道では桜のつぼみがふくらみ、藁の上で田んぼの住人(虫)たちが陽なたぼっこをしています。四万十川源流の里も、ようやく春の息吹を感じられる季節となりましたが、私こと、3月末をもって連絡協議会会長の任を解かせていただきました。一年半にわたり皆様方のご指導ご支援を賜りましたこと、心から厚くお礼申しあげます。

後任には、聰明英知な文筆家の藤寛氏が選任され、皆様のご期待に添うご活躍をなされることと確信いたします。どうか私同様新会長へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、全国の市町村や棚田の保全等推進に向けてご理解いたしました個人、団体の皆様方、また、ご支援を賜りました国、県を始めとする各種団体、そして劇団ふるさときやらばんの皆様に衷心より深く感謝を申し上げますとともに、協議会の一層の発展をお祈り申し上げます。

経済合理性を金看板に、村落共同体の精神構造を情け容赦なくぶち壊してきた日本の戦後農政にも、わずかながらの“救い”はあった。そこまで知恵が回らなかつたのか、あるいは面倒くさいと思つたのか、そら当たりは定かでないが、結果として『棚田』はほとんど手つかずのまま残つた。俗に“怪我の功名”という奴である。

棚田は美しい。その美しい棚田をみんなで力を合わせ守つてゆこう、と全国に呼びかけたのは初代会長の中越準

一氏である。中越さんのお話や随筆を聞いたり読んだりして感じるのは、下地に“農の風景”があるということだ。彼岸花を素材にしての自然描写などは、絶佳である。

そんな卓抜の先輩のあとを不肖私が引き受けることになった。難局のなかにリード・オフ・マンの役が務まるかどうか、まことに心もとない。こうなれば、わずかながらの“救い”に賭けて、棚田の保全に全力投球あるのみと、自分に言い聞かせているところだ。

## 新役員のご紹介

会長	佐賀県西有田町長	藤 寛	鳥取県佐治村長	下石 義忠
副会長	新潟県安塚町長	矢野 学	岡山県佐伯町長	坪井 迪郎
〃	岡山県英田町長	下山 敏之	岡山県中央町長	池上 彰昌
〃	長野県更埴市長	宮坂 博敏	山口県油谷町長	今津 好助
理事	愛知県鳳来町長	下江 利幸	福岡県星野村長	松永 雅男
〃	三重県紀和町長	中浦 敏夫	佐賀県肥前町長	井上 良富
〃	三重県飯南町長	田中 修八	愛媛県内子町長	河内 紘一
〃	和歌山県本宮町長	中山 喜弘	高知県梼原町長	中越 準一

(平成9年4月～・順不同)

## 事務局がかわりました

4月から全国棚田(千枚田)連絡協議会の事務局が変わりました。

新しい事務局は、

### 西有田町役場 農林商工課

〒849-41 佐賀県西松浦郡

西有田町大木乙2202

TEL 0955-46-2111

FAX 0955-46-2100

になります。

### 原宿FURUCARAシアター

#### にて全国田舎情報発信！

劇団ふるさときやらばんは、5月10日から8月10日まで、東京・原宿にてサラリーマンミュージカル「Oh!マイSUN社員」の連続公演を行います。

FURUCARAシアターには、ミュージカルの公演スペースと併せてふるさとステーションがあります。ふるさとステーションとは全国のうまい物がブロックごとに週替わりで出店され、ふるさとの味に舌づつみをうちながら都会のサラリーマンと交流をするスペースです。ここには実物大に近い春の棚田写真パネルが飾られ、棚田についてのさまざまな情報が発信されます。また日本地図にふるさと情報を載せ、ひと目で解るようにもなっています。オーナー制度、産直制度、体験制度など新鮮な情報を発信していきます。

棚田に限らず都會の方々に発信していく制度や情報がありましたら情報を寄せ下さい。そしておおいに皆様の市町村を都會の方々に知ってもらいましょう。【問い合わせ先：劇団ふるさときやらばん TEL03-5389-6321 花岡】

## 第3回棚田サミットの日程が決まりました！

3回目のサミットは、長野県更埴市で平成9年10月15日(水)・16日(木)の2日間行われます。現在、更埴市で内容を検討しています。乞うご期待！

## 全国棚田(千枚田)連絡協議会 新しく会員になった皆様

- 正会員〔自治体〕 愛媛県 大州市 市長 植田與一
- 贊助会員 千葉県 山田和枝
- 埼玉県 吉村妙子

## Information ご案内

インフォメーションに掲載する棚田の情報を募集しています。ふるさとネットワークまでお寄せ下さい

## 全国棚田(千枚田)連絡協議会・会員募集中

### △会費(年額)

正会員(自治体・団体)	30000円
正会員(個人)	10000円
賛助会員	5000円

### △お問い合わせは、西有田町役場まで

## 自分ブランドの美味しい日本酒はいかが？ (京都府大江町)

毛原地区の棚田で酒米を作り、そのお米で造った日本酒を味わいませんか？大江町では酒米作り体験の参加者を募集しています。参加者は、5月の田植えと8月の稻刈り、10月の交流会に必ず参加できることが条件。会費は1口30000円で、全部で30口募集します。参加者には、自ら作った酒米が原料のお酒やコシヒカリ20升、黒豆などの特産品が送られます。町では棚田の風景を残すことと都市住民との交流を目的にしています。将来的に「棚田オーナー制度」への発展も考えています。【お問い合わせ・申込みは、大江町役場産業建設課TEL0773(56)1104・4月10日〆切】



「目の前にそびえ立つ千枚田を見て、その雄大さに感動した。頭の下がる思いがして、思わず隣の椿原の中越町長に頭を下げてしまった。1000年前からずっと椿原の山々に刻み込まれた先人の営みは、この田が明かしてくれている。これは、3月20日にNHK総合で放映された「街道をゆく・プロローグ・時空の旅人・司馬太郎」の中のワンシーンだ。25年間にわたって雑誌に連載された紀行「街道をゆく」の執筆のため、椿原町を訪れた司馬さんが神在居地区にある千枚田に出会った時の様子である。石積みに守られ、山の上まで続く千枚田の風景は、かつての日本を知る大きな材料になったに違いない。取材の後、「万里の長城も偉大な遺産だけれども、神在居の千枚田も偉大な農民の文化遺産だ」と「街道をゆく」の文中に残している。司馬さんはまた、椿原の旅館に「水を汲む」「石を積む」という言葉を色紙に残したという。貧しい時代、食べるため生きるために急傾斜地を切り開いてきた先人たちの営みと、切なる想いがその言葉に集約されているようである。各地で棚田を守っている農家の方々を取り材する中でたびたび聞く「先祖から受け継がれた田を私の代で荒らしては申し訳ない」、この言葉の重みを改めて感じさせられた。

編集後記